



子育てに学ぶ 「子育てが教えてくれたこと」

私は子育てを通してたくさんのことを学びました。子育て中は何が大切なのか瞬時に考え、こどもに対応しなくてははいけません。あ～失敗した、と思ったことも一度や二度ではありません。また、どんなこどもに育てほしいかその場しのぎでは子育てはできないので、自分の価値観を問われ続けました。いいとわかっているけどできない自分や甘い自分もわかり、自分の傾向を知らされました。子育てを通して私は人として生きることの基本を学んできたように思います。現在孫との生活の中でも未だにどうなんだろうかという事がよく浮上します。まだまだ学ばなければいけないことがたくさんあるようです。

私はこんな風に子育てや孫育ての中から多くの事を学んでいますが、人にはいろいろな学び方があり、皆様にそれを強要するつもりはありません。

ただこどもの育ちは自分育てとは違い、こどもの人生がかかっています。人間の成長は普遍的な部分と個的な部分があるので、そこを理解しないとこどもがかわいそうだと思うのです。

こどもは何もできない状態で生まれ、およそ1年かけて立ち、手が自由に使えるようになります。それから歩くようになるとおしゃべりができるようになり、こどもの中に『考える』という質が育っていきます。人は動物のように本能では生きていけませんが、その代わりに考えて選択する能力をもっているのです。これは人間の成長の過程で決まっていることでこの順番が逆になることはありません。普遍的な事なのです。

一方人にはいろんな種類の能力や個性があって様々です。様々な人が様々な能力を差し出すことで社会が変わっていきます。その個性や能力はそれぞれ違っていて普遍的なものではないのです。

これらのことは自分のこどもであっても、自分の思うようになりません。その個性と能力を見極めることが大切で、自分の願望を反映できないのです。

まずは人になろうとするこどもの成長の過程をしっかりと知り、それからその子の個性を見つめ、その子がなりたい大人へと育ててほしいと心から思います。そのために子育てがあると思っています。

子育ては大変です。乳幼児は手や心をかけないと育ちませんが、実際には世話をして育てることが不得手な人が増えているように感じます。四六時中こどもにかかりきりになって自分の時間が奪われてしまうと感ずるのかもしれない。同じことの繰り返しで退屈なのかもしれない。できるだけ合理的に効率よく生活したいと思っている人には子育ては相いれないとは思いますが。

でも繰り返し言うなら、こどもは人の手を通してゆっくりとしか育ちません。人間の成長過程を正しく知って、こどもが大人と違うありかたをしているという事を理解するだけでも子育てへ負担は減っていくと思います。

こどものことを全く知らなかった私が思いもかけず教育現場に立ち、そこからシュタイナーの人間観を知りました。その人間観は混迷の中にいた私の育児に光をくれて現在に至っています。こどもや人間の観方がどのように子育てに役立ったか知っていただきたくて約3年間不定期で稚拙な文章を書いてきました。お読みくださった皆様の子育て孫育てに少しでもお役に立てればとても嬉しいです。

(シュタイナーようちえん メルヘンこども園 教師 田上恵子)